



とうかつ

千葉県教育庁東葛飾教育事務所
〒271-8563
千葉県松戸市小根本7
☎ 047-361-4103
Fax 047-368-5316

東葛飾教育事務所だより 第13号 2013. 8.

処暑も過ぎ、秋の足音が聞こえ始めました。昼間の暑さはまだまだ衰えませんが、朝夕には来るべき季節の気配を感じさせてくれるようになってきました。学校では、去り行く夏を惜しみながら、新学期への準備を始める頃ではないかと思えます。

8月の19日・20日には「教育課程研究協議会」が川村学園女子大学を会場に行われ、管内の三分の一の先生方にお集まりいただきました。実施に際しましては、各市教委の先生方に御協力をいただきました。平成23年度から続けてまいりました「指導と評価の一体化」についての研究協議も、今年度ですべての学校に、すべての教科で行ったこととなります。是非、協議会での研修を活かして行っていただきたいと思えます。

まもなく学校には、夏休み中に一回りも二回りも大きくなった子ども達もどり、校庭いっぱい元気な声を響かせてくれることと思えます。残された夏休みも、また新しい学期も、子ども達が元気で充実した日々を過ごしてくれることを願っています。

〈 学校便り1 〉

本のはらっぱ セタ装飾!



野田市立岩木小学校【素敵な図書室の環境整備】

野田市立岩木小学校では、子ども達の読書活動が活発になるように、図書室の環境作りに熱心に取り組んでいます。教室の真ん中に大きな木があり、まるで自然の森の中にいるようで、本の世界へと誘ってくれます。季節にあった環境作りは、子ども達が行ってみたいくなる図書室となり、本が大好きな子ども達を育成しています。



図書室側面の飾り付け



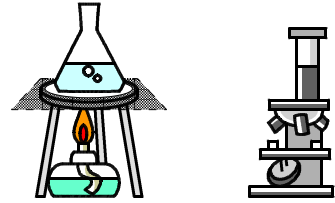
図書室背面の飾り付け



図書室前の廊下の様子

〈 学校便り2 〉

不思議発見!実験大好き!



柏市立松葉第二小学校【松葉サイエンスフェスティバル】

毎年、県立柏高校の理数科の先生方，生徒のみなさんが，楽しい実験ブースを設けてくださり『松葉サイエンスフェスティバル』が開催されます。6年生が，「オーロラ」「カルメ焼き」「スライム作り」など14の実験ブースのうち，興味深いものから回って行きました。どれも子ども達の科学的興味をそそる実験ばかりで，6年生は大満足な様子でした。



ワイングラスの共鳴



スライム作り



オーロラの仕組

〈 研修会便り 〉

若手教員の先生方の悩みを解決!

～若手教員育成研修担当者から～



本年度実施してい

ます「若手教員研修会」の概要についてお知らせします。

まずは，東葛飾教育事務所指導室からの研修会のお知らせをご覧ください。



若手教員研修会は、平成23年度、千葉県教育委員会の新規事業としてスタートしました。信頼される質の高い教員の育成を目指し、教職経験2年目から5年目の教員を対象とした研修事業です。それを受けて各教育事務所には若手教員育成推進員が配置されました。本年度、東葛飾教育事務所では田頭美代子先生、戸室明先生、舟橋邦夫先生の3名が推進員としてその任にあたっています。



上の3枚の写真は、6月19日（水）鎌ヶ谷市立五本松小学校を会場として行われた研修会の様子です。ここでの研修内容は、①授業参観 2年「道徳」4年「国語」②協議会：学級経営上の悩み等の話し合い ③参加者からの感想等発表 でした。

参加者からは事前に、教科、学級経営、生徒指導上の悩み等が報告され、そのことについても可能な限り協議会において話し合いが行われました。なお、参加者全員の悩みや抱えている問題点については、一覧にまとめて配布し、参加者が共有できるよう努めています。

本年度の若手教員研修会の概要は次のとおりとなっています。

- | | |
|----------------------|---------------------|
| ①管内6市を会場とした研修会 | 内容：授業参観・協議会・希望者への面接 |
| 6月19日（水）鎌ヶ谷市立五本松小学校 | 8月28日（水）我孫子市立湖北台中学校 |
| 10月22日（火）流山市立南流山小学校 | 10月22日（火）野田市立第一中学校 |
| 10月25日（金）流山市立江戸川台小学校 | 11月21日（木）柏市立柏第三小学校 |
| 11月29日（金）松戸市立小金小学校 | |

なお、我孫子市立湖北台中学校での研修内容については、現在検討中です。

- ②8月（1日、6日）研修会 内容：講義・協議会・希望者への面接

会場は、1日（木）合同庁舎6階会議室、6日（火）東葛飾研修所大研修室

- ③その他 学校からの要請への対応



昨年度実施した若手教員研修会においては、参加された先生方の教育に対する真摯な姿に心を打たれました。これからの東葛飾教育の担い手としての先生方に確かな手応えを感じました。本年も微力ながら先生方のお役に立てればと願いつつ、その任を果たして参ります。

〈 遊・友スポーランキングちば取組状況 〉



いきいきちばっ子コンテスト 「遊・友スポーツランキングちば」

千葉県教育委員会では、児童生徒の体力向上を図るために、授業や休み時間に取り組める運動種目を紹介しています。仲間と楽しく協力し合うことによって、好ましい人間関係や社会性を育成するとともに、ランキングを公表することにより活動の意欲化と継続性を図っています。クラスやグループの記録が更新されたら、県体育課学校体育班へFAX（043-221-6682）願います。報告書は県ホームページよりダウンロードしてください。

平成25年度 前期（4月1日～6月30日）種目別1位・2位にランキングされた管内の学校

【長縄8の字連続跳び】

小学校低学年グループの部1位	柏市立大津ヶ丘第二小学校	213回
小学校中学年グループの部1位	柏市立酒井根小学校	299回
小学校中学年グループの部2位	柏市立酒井根小学校	294回
小学校高学年グループの部1位	我孫子市立新木小学校	488回
特別支援学級グループの部1位	柏市立大津ヶ丘第二小学校	142回

【連続馬跳び】

小学校中学年グループの部1位	流山市立鱒ヶ崎小学校	16秒07
小学校中学年グループの部2位	流山市立鱒ヶ崎小学校	16秒32

【ボールパスリレー】

特別支援学級グループの部2位	流山市立西初石小学校	41回
----------------	------------	-----

生徒指導室スクールソーシャルワーカーの目から

梅雨明けから突然の猛暑となり、体調を崩さないよう小まめな水分補給や紫外線対策をしっかりと、夏をお過ごしください。

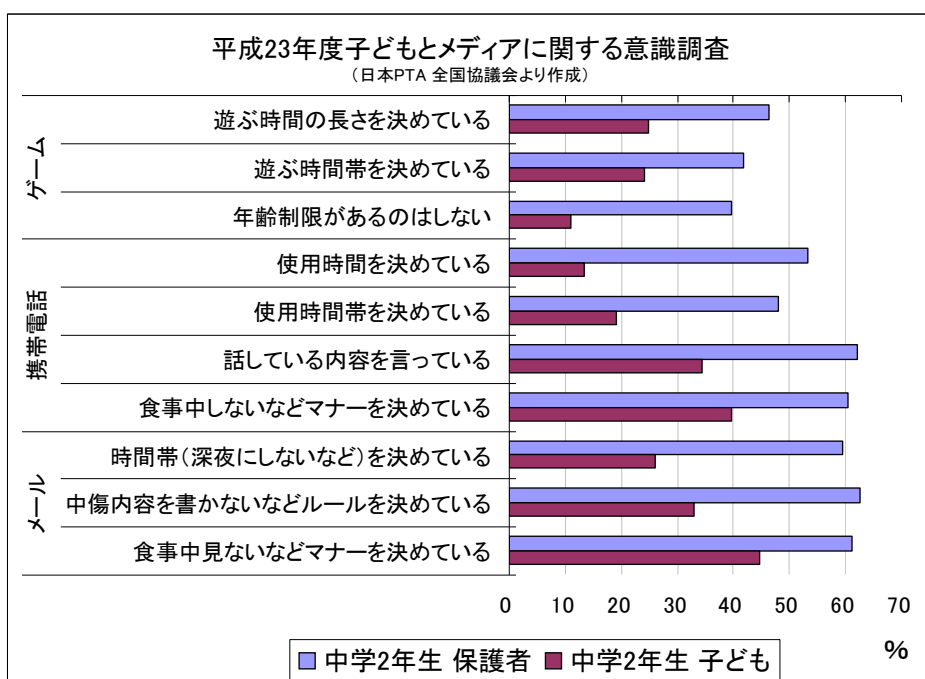
猛暑といえども夏休みになると、学校から解放され？生き生きとしてくるお子さんも多いかもしれませんね。しかし、暑さと休みが続くと、子どもたちは涼しい家にこもりがちになったり、ゲームやTVなどでだらだらと過ごしたりと、不規則な生活になりがちです。不規則な生活が続くと、2学期の規則正しい生活に戻るのに苦労する場合がありますので、夏休みでも生活リズムを崩さぬよう注意して、有意義に過ごすようにして下さい。ちなみに、一日に3時間以上ゲ



ームをする子どもの割合は、平日は約4%（小5は4.2%、中2は4.4%）ですが、休日は約13%（小5は12.6%、中2は13.4%）と3倍に増えるようです。

さて、小学5年生と中学2年生、その保護者を対象に行った調査結果（平成23年度子どもとメディアに関する意識調査、日本PTA全国協議会）によると、ゲームや携帯、メールの「ルール」について、子どもと親の認識の違いが明らかになりました。例えば、ゲームの遊ぶ長さや遊ぶ時間帯、年齢制限があるゲーム、携帯やメールの使用時間、使用する時間帯、食事中見ないなどのマナーやルールなど、親は決めていると思っても、子どもの意識は低い結果が得られました。親はルールを言い聞かせていると思っても、子どもは自分のルールで使ってしまう実態が明らかになったと言えます。携帯やメールのマナーに関しては、中学生よりも小学生の方の意識が低く、保護者の意識も中学生の保護者よりも低い結果でした。

保護者の方も何かと忙しいとは思いますが、お子さまがゲームや携帯と程よく付き合うために、便利さだけでなく、マナーや危険性を含めたルールを一緒に話し合ってみてはいかがでしょうか。この現代に、ゲームも携帯もなかったら、お互いの大切な時間はもっとあるのと思うのは、私だけでしょうか。



自分の事が好き、私って良い感じ、と自分を誇りに認めるようになるためには、家庭や学校、友だち関係を通して、「人と人との肯定的なかかわり体験」（賞賛、承認、励まし、評価、そして共感）を基盤にしながら育てていくものです。しかるに、まずは関わる大人が、家族が、互いに認め合う人間関係、尊重し合うありさまを子ども達に示されたいと思います。実行できなくても、結果や成果を出せなくても、それに取り組もうとしている自分にエールを送ることが、自尊感情を育てることになります。結果ではなく、過程を大事に、認め、褒めてあげたいものです。



特別支援アドバイザーの学校訪問



「感情を抑えられず、すぐに手や足が出てしまう」「落ち着きがなく、人の話を聞いていない」「指示が通りにくい」など、児童生徒の問題の対応に日々苦勞している先生達が数多くいます。目の前の子どもの問題に真摯に取り組む先生達の力になりたい、そんな気持ちで私たち特別支援アドバイザーは皆様の学校を訪問しています。

こうした児童生徒の問題行動や気になる行動は、本人の努力や自覚、また、家庭の環境の問題と片付けるわけにはいかないことがあります。

私たちは、教室訪問での観察や担任の先生からの聞き取りなどから、まずは児童生徒のプロフィールを明らかにすることから始めます。本人の努力ではどうにもならない、また、先生が強く叱ったくらいでは解決できない発達障害と言われる特質に根ざした場合が少なからずあります。なかなか分かりにくいことですが、一番困っているのは本当は当の子ども達なのです。こうした場合は個に即した特別支援が必要となります。

放課後には、限り有る校内の教育資源を有効に活用しながら、特質に根ざした特別支援をどのようにすすめるか、先生達とひざ詰めの話し合いになります。担任の先生だけではなく、校長先生や教頭先生、部活担当や養護教諭、専科の先生など関わりのある先生が全て参加する学校もあります。

現在、当管内には5名の特別支援アドバイザーがおりますが、学期始めや学期末を除き、ほぼ毎日フル回転で学校訪問をしております。何か変だ、ちょっと心配な言動が多い、など気になる子ども達のことがありましたら、市教委をとおしてぜひ私共にお声がけください。